

1 集合日時・場所

令和2年11月21日(土) 11時50分 名鉄広見線明智駅改札出口

※ 名鉄名古屋駅発10:53 名鉄明智駅着11:48 料金950円
(特急新鵜沼行)

犬山駅で新可児行に乘換え、新可児駅で御嵩行に乗り換え明智駅下車

※ 明智駅はマナカ非対応(無人駅)、新可児駅の改札で明智駅までと申告、
明智駅までの料金を精算、又は乗車駅で切符を購入する方法の選択
徒歩5分瀬田、浜木綿で昼食45分、徒歩20分で12:40天竜寺へ

2 産湯の井戸(井戸跡解説板のみ) ～天龍寺への途中にあり～

「中瀬田の浦田に有りてその地に大榎あり、樹下にある古井は昔、明智光秀の産湯使いし処なり」と言い伝えられている。この井戸は耕地整理でなくなったが、今もこの付近では土器の破片が出土している。堀の跡の一部も最近まで残っていた。

3 天龍寺、東栄寺及び太元神社(30分)

12:40

天龍寺は、永平寺を本山とする曹洞宗の寺で「聖観世音菩薩」を本尊としている。寛永2年(1625)に武儀郡下有知村龍泰寺の末寺として開山した由緒ある寺である。明智一族の菩提寺として6月に法要が営なわれていて、本堂に命日の6月13日にちなんで6尺1寸3分(184センチ)の大きな光秀公の位牌と木像の光秀像が祀られている。参拝者駐車場に明智氏歴代の墓がある。

東栄寺は、天台宗の寺で「不動明王」を本尊とし、初期の土岐氏(明智氏)は天台宗を崇めていた。創建は、明智初代城主土岐頼兼が出家し「善桂」と称し天台宗の寺を建立したと伝えられている。山号が太元山で太元神社の守護寺であったと言われている。明智氏の菩提寺であったが後に天龍寺に移る。

太元神社は、応神天皇を祭神として万治2年(1617)に奥の院の分社として作られた。美濃国諸日記では土岐氏(明智氏)は清和天皇の嫡流なるによって八幡宮を氏神としている。土岐頼重築城の妻木城、明智庄の明智城等土岐一門の城下に八幡社が祭られている。

4 明智城跡(40分)

13:10

明智荘は、1,100年前の平安期醍醐天皇の頃に定められた。10世紀に

なると当時の藤原氏の荘園となり、12世紀に京都の石清水八幡宮の御領所になる。瀬田村、石井村、石森村、平貝戸村、淵之上村、瀬戸村、古屋敷村、柿田村を指して明智八郷と呼んでいる。

明智城は、康永元年(1342)に土岐民部大輔頼清の次男、土岐頼兼が瀬田村に明智城を築城した。当時は治めていた地名を一族の名前にすることが普通であり明智を名乗った。その後215年にわたり居城するが、弘治2年(1556)に斎藤義龍に攻められ落城し、光秀は西濃の親族を頼り落ち延びた。この一帯は可児郡における唯一最大の古戦場である。

大手門～桔梗坂～セツ塚～展望台～明智城跡本丸石碑

5 六親誉属幽魂塔（ロクシンケツ クウコンドウ）（10分） 14:00

昭和48年明智城址発掘調査の折、本丸の西の支脈上から六親誉属幽魂塔が発掘され、同時に地中から人骨及び武具が発見された。これが明智城落城時の戦死者であると考えられている。以前にこの付近で槍の柄、錆びびた刀の残骸などが見つかることがあったと言われている。

6 大河ドラマ館見学(30分) 14:30

花フェスタ記念公園内、料金500円(JAF会員400円)

※ シャトルバス 土曜日毎時25分、55分発(休日10分、25分、55分発)
可児駅行 10分、料金200円。花フェスタ15:25発

7 名鉄新可児駅 15:35

※ 新可児駅発15:44 名鉄名古屋駅着16:32 料金950円

8 懇親会(会費5,000円) 16:45

名古屋駅前「旬蔵」で開催(17:00～19:00)

